3200年の時をこえて

世界遺産の登録を目指す「キウス周堤墓群」

縄文時代後期（およそ３２００年前）に、市内中央地区の緩やかな斜面上に造られたキウス周堤墓群。
周堤墓とは、地面に円形の穴を掘って、周囲に土を積み上げドーナツ状の土手を造り、内部にお墓を設ける北海道固有の集団墓地です。
キウス周堤墓群は、現在、北海道と北東北を中心とした18の縄文遺跡群の構成資産に加わり、世界遺産の登録を目指しています。
今月の特集は、世界遺産登録を目指すこれまでの取り組み状況などについてお伝えします。

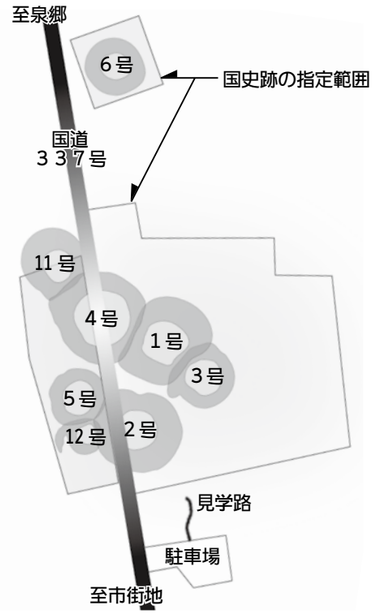
なぜ縄文時代後期に造られたと分かるの？

キウス周堤墓群は、左の図に示す8つの周堤墓をいいます。昭和39年にはじめて教育委員会が実施した1号周堤墓の発掘調査では、中央から5つのお墓と縄文土器が見つかりました。また、翌年には2号周堤墓の発掘調査を行い、お墓が1つ見つかりました。

周堤墓の上には、2500年ほど前に噴火した樽前山の火山灰があったことから、縄文時代後期に造られた墓地ということが分かったのです。

その後、昭和53年の測量調査によって11号・12号周堤墓が見つかり、このときの測量図をもとに、昭和54年に8基の周堤墓を含む約5万平方メートルが国史跡に指定されました。

図：国史跡に指定されている８つの周堤墓



世界遺産登録を目指した取り組み

平成21年1月に北海道・北東北を中心とした15の縄文遺跡群の構成資産が、国の指定する世界遺産登録暫定一覧に登録されました。

キウス周堤墓群は、この時点で構成資産に登録されていませんでしたが、平成24年12月、縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す「縄文遺跡群世界遺産登録推進本部」が開催した会議において「北海道固有の大規模集団墓地で、縄文文化を語る上で欠かせない価値を持つ遺跡」として、縄文遺跡群の構成資産に追加されました。

このとき、キウスのほかに函館市と弘前市の2遺跡が追加され、北海道・北東北14市町にある18遺跡を一体として、世界遺産登録を目指すことになりました。

平成25年7月には、国内の世界遺産推せん候補を決める世界文化遺産特別委員会（文化庁所管）に初めて縄文遺跡群の推せん書を送りましたが、これまで国からユネスコへの推せんは、見送られています。

キウス周堤墓群歩み

- **昭和39年７月**
  ：１号周堤墓の発掘調査を実施する（初の本格的な発掘調査）
- **昭和40年７月**
  ：２号周堤墓の発掘調査を実施する
- **昭和53年５月**
  ：測量調査から11･12号周堤墓の存在を確認する
- **昭和54年10月**
  ：８つの周堤墓を含む５万平方メートルが国史跡に指定される
- **平成21年１月**
  ：「北海道･北東北を中心とした縄文遺跡群」の構成資産が世界遺産登録暫定リストに登録される
- **平成24年12月**
  ：「北海道･北東北を中心とした縄文遺跡群」の構成資産にキウス周堤墓群が追加される
- **平成25年７月**
  ：世界文化遺産特別委員会に推せん書を送るもユネスコへの推せんが見送られる
- **平成26年７月**
  ：世界文化遺産特別委員会に推せん書を送るもユネスコへの推せんが見送られる
- **平成27年７月**
  ：世界文化遺産特別委員会に推せん書を送るもユネスコへの推せんが見送られる

シリアル・ノミネーションで世界遺産登録を目指しています

シリアル・ノミネーションとは、連続性がある複数の構成資産をまとめて１件の世界遺産として登録を目指す手法です。

「姫路城」や「原爆ドーム」は単体の世界遺産ですが、「富士山」は登山道や湖など計25の資産から成る世界遺産です。

「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」は、18の遺跡全体を１件の世界遺産として登録を目指す、シリアル･ノミネーションの手法を取っています。

世界遺産登録までの道のり

●自治体から国へ提案書を提出
世界遺産の候補資産を都道府県や市町村が協同で国に提案する。

●世界遺産暫定一覧表に記載
自治体から提案された候補を国が世界遺産暫定一覧表に登録することについて、審査・選定する。
※「縄文遺跡群」は、現在この一覧に登録されている。

●推せん書の提出
暫定一覧の中から毎年1つ、国が推せんする候補資産を決定する。候補資産の推せん書を世界遺産登録決定機関であるユネスコ（国際連合教育科学文化機関）に提出する。

●専門機関による現地調査
ユネスコの諮問機関で世界遺産登録の審査を担当するイコモス（国際記念物遺跡会議）が現地調査により、評価報告書を作成してユネスコに提出する。

●ユネスコ世界遺産会議で審議・決定
イコモスの報告書に基づいて、ユネスコが世界遺産登録にふさわしい資産か審議・決定する。

キウス周堤墓群周辺の調査

縄文時代後期の生活状況や新たな事実の発見は、周堤墓群の価値をより高め、世界遺産登録に向けた取り組みを前進させることにつながります。

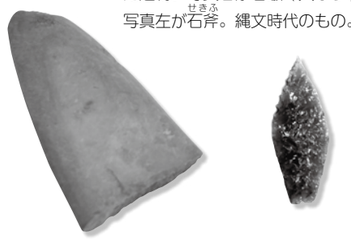
教育委員会では、周堤墓群の周辺に他の周堤墓やお墓などがないかを調査するため、平成25・26年の2年間にわたり、周堤墓群に隣接する南側と東側の約4万平方メートルの区域、115か所の測量と試掘調査を行いました。

試掘調査によって、新たな周堤墓やお墓は見つかりませんでしたが、約600点の遺物が出土し、その中には周堤墓と同じ縄文時代後期の遺物のほか、周堤墓が造られた縄文時代後期よりも新しい時代（続縄文時代）の遺物も含まれていました。

このことは、キウス周堤墓群が使われなくなった後も、この周辺に人々が訪れていたことを物語っています。縄文時代最大級の集団墓地キウス周堤墓群が、後世の人々にとって神聖な場所として永く記憶されていたと考えられます。

また、今年は5月から6号周堤墓に隣接する約5万7千平方メートルの区域、107か所の測量と試掘調査を実施しています。

平成25・26年の発掘調査で出土した土器の一部。左の写真は、縄文時代後期の土器。右の写真は、続縄文時代の土器です。続縄文時代の土器は、表面の穴が特徴。


平成25・26年の発掘調査で出土した遺物。写真右が石鏃（せきぞく）（矢じり）、写真左が石斧（せきふ）。縄文時代のもの。

まち全体でキウス周堤墓群の価値を高める

教育委員会では、縄文土器づくりや勾玉づくりの体験学習会などを開催して、キウス周堤墓群が造られた縄文時代の文化に親しんでもらう機会を設けています。まち全体で遺跡への理解を深めることは、世界遺産登録の取り組みを進めるうえで重要なことです。

平成26年には、キウス周堤墓群の世界遺産登録に向けた取り組みを、まち全体で盛り上げるために市民活動を行う「キウス周堤墓群を守り活（い）かす会」が発足しました。

土器づくりの様子。粘土で縄文土器をつくり、2週間かけて乾燥させた後に、野焼きします。

勾玉は、古代人の装飾品。体験会では、紙やすりを使って石を削り形を整えます。

キウス周堤墓群を守り活（い）かす会
会長　大江（おおえ）　晃己（こうき）　さん

千歳に世界遺産ができるかもしれない。キウス周堤墓群が世界遺産の候補になったときは、とても嬉しい気持ちだったことを覚えています。その反面、私のまわりでは「キウスって何ですか？」という方が大半でした。そこで、人・まちづくりにつながる活動を行う市民活動団体「みんなで、ひと・まちづくり委員会」に所属していることもあり、キウスのことを知ってもらうための講習会を提案し開催しました。この講習会は毎年1回開催していて、100人ほどを連れてキウス周堤墓群を実際に見学したこともあります。

キウスを周知する団体をつくり、自分たちもキウスについて勉強しながら、多くの市民を巻き込んで世界遺産登録への後押しをしていこうと、平成26年6月「キウス周堤墓群を守り活かす会」を発足させました。今年も10月に講習会を開催する予定です。

もちろん、キウスが世界遺産に登録されることを期待しています。ユネスコへの推せんは今年も見送りになりましたが、世界遺産登録への道が絶たれたわけではありません。今後も、市民の皆さんをはじめ千歳を訪れる方にも、キウスをＰＲできるような活動を続けていきながら、世界遺産登録への取り組みを後押ししていきたいです。

キウス周堤墓群を見学しませんか

世界遺産の候補になってから、道外の旅行客や修学旅行生など、キウスを見学する方が増えています。

見学者から「キウス周堤墓群の駐車場がどこにあるのか分からなかった」との問い合わせがあったことから、教育委員会では、市街地からと長沼町方面のどちらからでも、駐車場の入口が分かるよう看板を設置しました。また、簡易水洗トイレを設置しました。

キウス周堤墓群をゆっくり散策して、縄文の雰囲気を味わってみませんか。

見学路には、周堤墓群を解説するパネルを設置しています。

キウス周堤墓の駐車場に設置したトイレ。

入口付近に立っている青色の看板が目印です。

埋蔵文化財センターの常設展示にキウス周堤墓群のコーナーができました

埋蔵文化財センターでは、市内の遺跡から出土した遺物を展示する常設展を行っています。

今回、キウス周堤墓群をはじめて本格的に調査した昭和39・40年の出土遺物を常設展示することになりました。

1号周堤墓のお墓で見つかった石柱（墓標）や2号周堤墓のお墓から見つかった副葬品の土器、土偶、石皿のほか、平成23年に実施した企画展「縄文最大の集団墓国史跡キウス周堤墓群」のパネルも掲示しています。

また、10月1日から企画展「世界遺産登録をめざす北海道縄文遺跡群」を埋蔵文化財センターで開催します。

「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の構成資産に登録されている伊達市北黄金貝塚、洞爺湖町入江・高砂貝塚など6つの国史跡を、出土した遺物やパネルで解説しますので、ぜひご来場ください。

1号周堤墓から見つかった石柱。長さは62㎝。お墓に深く埋められており、発見時は30㎝ほどが地上に見えていました。

常設展示コーナーの様子

３２００年の時をこえて

平成25・26年の調査から、キウス周堤墓群が、縄文時代後期より新しい時代の人にとって永く記憶される特別な場所だった可能性が見つかりました。

３２００年の時をこえて、世界遺産登録を目指すキウス周堤墓群は、現在の私たちにとって特別な遺跡と言えるのではないでしょうか。

今後も、遺跡の調査をはじめ、市民の皆さんにキウスの価値や魅力をお伝えするさまざまな取り組みを行いながら、キウス周堤墓群の世界遺産登録に向けた取り組みを進めていきます。

愛称は「ママチくん」

市内のママチ遺跡から出土した土面をモデルにしたキャラクター。

今回、キャラクターの愛称を公募したところ652件の応募があり、選考・審査の結果「ママチくん」に決定しました。埋蔵文化財センターが発行するパンフレットなどに登場しています。多くの方に親しまれるよう、これからも活躍していきます。

特集記事のお問い合わせ
埋蔵文化財センター
☎(24)４２１０